

エラック口腔ケアNEWS Vol.25

今回は認知症を発症したご利用者様・患者様の口腔ケアがテーマです。解説はケアマネージャーとして在宅口腔介護に豊富な経験を持つ歯科衛生士齊藤美香先生(旭川市DHケアプラン主宰)です。



認知症と口腔ケア

一般的なイメージとして、認知症の方々は介護施設や病院などで生活されている印象がありますが、実際は在宅で療養されている方も大勢居ます。その方々の日常生活を支えているのは、大半が医療職ではなく、ご家族です。

そして、近年の核家族化により介護する側のマンパワーの不足、高齢化などがあり介護と口腔ケアの両立は難しい、まして認知症の口腔ケアなんて・・・と、口腔ケア提供者となるご家族の認知症への理解不足があるように思われ、敬遠されているのが現状です。

認知症の口腔ケアは、認知症の方に特化した特別メニューはありません、また特別なケア用品なども必要とせず、対象となるその方の個々の「認知症」に沿ったケアをする事が大切です。

できていた事は、できる様になる!?

認知の症状が出ていても、その方元来の性格や生活習慣は残っているものです。

例えば、若い頃から身だしなみをきちんとして、キレイ好きで・・・という方は、認知の症状が出ていても居室は整理整頓されているとか、掃除をすすんで手伝う・・・とか。

口腔ケアも、出来る事はご自身でして頂き、介助者はその方に合ったコミュニケーションをとる事が大切です。

【事例】

79歳 女性 脳血管性認知症 介護度3 在宅療養中。53歳の娘さんと2人暮らし。
以前は小学校で教師をされており、几帳面な性格との事。



•入れっぱなしの入れ歯を外してもらう

義歯(入れ歯)を外さないのではなくて、入っていることを忘れてしまっているのです。怒りつけず根気よく説得して外し、どうしても駄目な日は入れたまま歯磨きしてもらい違和感を感じていただくのが良いでしょう。

•清掃は模倣してもらう

家族(娘)も義歯だったので、目の前で口から出し清掃してもらい模倣するようにしていただきました。

•歯磨きカレンダーを付ける

この場合は日にちに○印とシールを貼ってもらい毎日の習慣付けの一環としました。専門職としてはケア用品(義歯ブラシ・洗浄剤)の選択と使用方法指導(家族へ)。カレンダー提供とご自身でケアが出来た時、毎回かなり褒めるようにしました。

3ヶ月後、家族が義歯の手入れをし出すとご自身も・・・というのがほぼ毎日となり、衛生状態も改善されました。認知症の方への関りは難しい事もありますが、ご本人の身になって考え、労わりや励ましの心を忘れずに関る事が大切です。

今日出来なくても明日は出来るかもしれない・・・口腔ケアは難しいものではありません。専門職と上手く連携し毎日楽しく習慣付けましょう。



制作協力:DHケアプラン www.geocities.jp/dhcareplan

